

2010・広大マスタース市民講座報告

野っ原探検講座（第3回）東広島の大地探検 “龍王山の自然と遺跡”（9月26日開催）

沖村 雄二

出席者は少なかったのですが（参加予定の児童に、他の行事との重複などがあったようです）、皆さん非常に熱心で、メモを常にとっておられ、質問もたくさんされました。お土産に用意した大理石（広島県帝釈石灰岩地域産）は、方解石の結晶が美しくいい記念になったようです。龍王山の岩石（花崗岩＝みかげいし）は、花崗岩質マグマが地下ひじょうに深い高温のもとで鉱物の結晶ができはじめ、地表に近づくにつれて温度が下がり、全ての鉱物が形成された深成岩であること；そして同質のマグマにまだ流動性が残っている時にできた、黒っぽい岩石を取り込んだ岩石（通称：捕獲岩）ばかりを集めてつくった大きな古墳の上に立って、この地域の有力者のお墓に思いを重ねておられたようです。野っ原探検の最後は、西条の酒造地帯の方に向いている断層崖にふれて、雨水が地下水になっていく仕組みも理解されたようです。セミナーハウスに帰って、教科書に載っている化石に触れ、昔の生物との交流を楽しみました。目から鱗、という声が何回もできた稔り多い3時間でした。心配していた熱中症や怪我もなく、無事で楽しく講座を終わることができ、安堵しました。参加してくれた家族、ご協力いただいたスタッフの皆さま、どうもありがとうございました。



写真1：“捕獲岩“にこだわって作られた新立1号古墳”の見学



写真2：教科書にのっている示準・示相化石に触れる

自然に触れて学び・遊ぶこの講座を終わるにつけ、“見ているようでも、本当は何も見えていなかった”という感想が多かったことを考えますと、私たちは、平素の生活のなかで、自然とのかかわりを知る機会に恵まれていないのではないかと思います。自然の姿を見てやろう、見たら考えようは、生きていることを感じることにつながるのではないのでしょうか。